



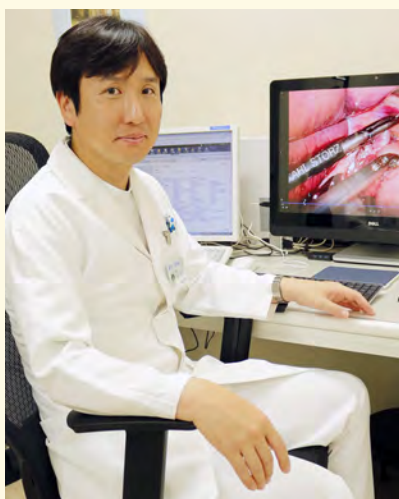
【理念】 昨日を反省し 今日を考え 明日に備える
【基本方針】

1. 私達は、患者様の人権と意思を尊重し納得と同意に基づく患者様本位の医療を心がけます
2. 私達は、地域住民の皆様健康維持増進に寄与し、安全で信頼を得る医療を実行します
3. 私達は、日々研鑽し働きがいのある職場をつくり良質で高度の医療を目指し努力します
4. 私達は、当院における診療機能を積極的に公開し、地域の医療機関、高齢者・福祉施設との連携を推進致します
5. 私達は、院内情報を共有し、健全で安定した運営を 継続するため努力します

消化器外科へ新たに医師 1 名が入職し

腹腔鏡手術 本格始動！

入職 Dr 紹介



外科部長
岩松 清人 (いわまつ きよひと)

【プロフィール】

群馬県出身。平成15年自治医科大学卒業。群馬大学附属病院、国立高崎病院（現高崎総合医療センター）、館林厚生病院、前橋赤十字病院、東吾妻町国保診療所などの勤務を経て、平成30年より当院に勤務。

【資格認定】

日本外科学会専門医 / 日本がん治療認定機構がん治療認定医

【医師を目指した理由・きっかけ】

将来人の役に立つ仕事をしたいと考えた時に、体にメスを入れて病気を治す外科のすごさに魅了され目指しました。

【診療する上で大切にしていること】

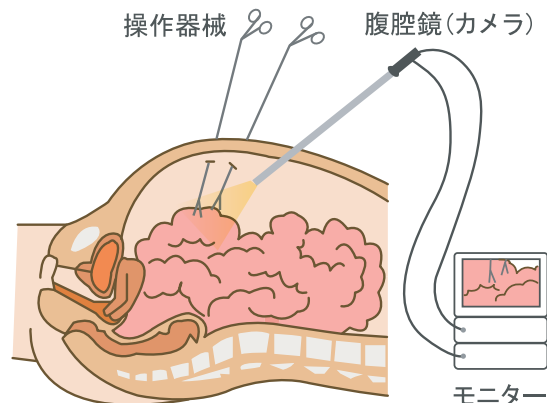
病気は千差万別。患者様が病気と向き合うお手伝いをいたします。

【好きな言葉・座右の銘】

一期一会、誠心誠意

腹腔鏡手術は、20～30cmの傷をつける従来の開腹手術（現在でも症例に応じて適応してますが）に比べて、患者さんへの侵襲が小さく術後の回復が早いのが大きな特徴です。

腹腔鏡による拡大視効果で肉眼では見えない細い血管や構造をみながら精緻な手術が可能となります。出血量が少なくなる傾向が多数の論文でも報告されており、手技の習熟に伴い開腹手術に比べての手術時間の延長は短縮しております。また皮膚縫合も吸収糸で埋没縫合しますので抜糸処置もなく傷跡もより目立たなくなります。従来の開腹手術に比べ術後の回復が早く、入院期間の短縮と早期の社会復帰が可能です。



入院期間のめやす

胆嚢手術	ヘルニア手術	胃癌	大腸癌
4～5日	2～3日	10～14日	10～14日

胆嚢、ヘルニア、虫垂炎、胃がん、大腸がん、直腸がんに 出血の少ない低侵襲な手術を

良性疾患の胆嚢や鼠径ヘルニアや虫垂炎には積極的に腹腔鏡手術を適応しております。当院では Reduced port surgery（ポートの傷を少なく小さく）や単孔式などのさらなる低侵襲手術も行っております。

悪性疾患において、胃癌に対しては進行度に応じて適応を判断しており、具体的には漿膜面に露出のない（T3 まで）、高度リンパ節転移のない（N1 まで）症例を腹腔鏡手術の適応としております。進行癌に対しては D2 郭清を伴う幽門側胃切除や胃全摘術などの定型手術を行います。大腸癌に対しては、ほぼすべての症例を適応としております。直腸癌の骨盤内操作においては出血の少ない神経を温存した剥離操作が可能となり、良好な視野で安全な吻合操作が行えます。なお当院では肝臓や膵臓の手術に関しては、腹腔鏡手術を導入しておりませんので開腹手術の適応となります。



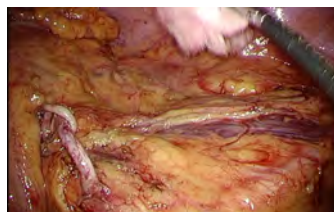
胆嚢摘出術後



胆嚢摘出後



胃膵頭部郭清



直腸中枢郭清終了



S 状結腸切除術後

腹腔鏡手術の安全性

炭酸ガスで気腹をして行う腹腔鏡手術は胆嚢摘出術においては 20 年以上の歴史があり広く普及している安全な術式です。鼠径ヘルニアに対しては診断の確実性と両側同時手術が可能などのメリットがあり近年普及が広まっており当院でも導入いたしました。癌に対する手術に関しては全国でも施設間格差があるのが現状で、安全性と有効性を示すエビデンスは蓄積中です。自分のスキルとしては、県内の基幹病院で腹部手術の幅広い症例を経験してまいりました。中でも群馬大学附属病院における 2 年間は胃癌手術を専門に指導的立場で研鑽を積むことができました。その前年度には、大腸癌手術で有名な大阪の施設へ 2 か月間国内留学をする機会にも恵まれ、トップナイフの手術手技を学ぶことができました。数百例以上の腹腔鏡手術の経験の中で手術関連死亡は 1 例も経験しておらず安全で低侵襲な治療であると考えております。

地域の先生方へ

外科診療を通じて地域医療に貢献したいと考えております。腹腔鏡手術も選択肢のひとつとして安全な手術の施行を心掛けております。胆石、虫垂炎などの良性疾患においては、Reduced port surgery や単孔式などのより低侵襲な腹腔鏡手術を行っております。入院期間の短縮、早期社会復帰、良好な整容性を実現いたします。

患者さんの術後管理させていただく中で、腹腔鏡手術は術後の早期回復がみてとれる有用なツールのひとつです。患者さんに一生に一度の手術を安心して受けていただけるよう、十分な情報提供と細やかな診療を心がけております。

外科部長 岩松 清人



新看護部長よりごあいさつ

温かい手と優しいまなざしで 心のこもった看護を

平成 30 年 3 月 16 日より看護部長に就任いたしました松中純子と申します。

この重責に今まで以上に身の引き締まる思いで日々を過ごしております。前看護部長が築き上げたものを基盤とし、さらに発展した組織となるべく努力して参ります。

東邦病院看護部は「患者様の立場に立った思いやり優しさのある看護を提供します」を理念とし、看護の質の向上・患者様サービス向上に日々努力しております。患者様により良い看護を提供するには、専門職として必要な「知識」「技術」そして「態度」、患者様の立場になって対応できる思いやりの「心」が大切です。職員一人ひとりが組織の一員として深く自覚し、専門職としての自信と誇り、やりがいをもって生き活きと自律していけるよう支援していくことが重要な責務であると考えています。

看護の看は「手」と「目」が基本と言われています。温かい手を差し伸べ、優しい眼差しで心のこもった看護を提供できることは私達職員にとっての喜びです。この喜びを感じ、輝き続けることができる職場にしていきたいと思っております。

自己に与えられた役割を深く自覚し、努力していく所存ですので、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

看護部長 松中 純子

